

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372300901		
法人名	社会福祉法人樹の里		
事業所名	グループホーム樹の里		
所在地	愛知県瀬戸市柘屋田町93-106		
自己評価作成日	平成22年2月5日	評価結果市町村受理日	平成22年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372300901&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 TMCサポート
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F
訪問調査日	平成22年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた建物で特別養護老人ホームとデイサービスが併設されている。玄関脇の花壇や裏の畑でご利用者が園芸や農作業を楽しみ、収穫した野菜は調理し、食卓をにぎやかにしている。複合施設の利点を生かし冬季や悪天候の時でも広い施設内を散歩にかけ、顔なじみの方との交流を図ることが出来る。季節毎共有スペースや居室にご利用者が作成した貼り絵や作品を飾ることにより暖かい雰囲気作りや季節感を感じて頂けるよう心掛けている。他部署との連携や協力を得られることで情報交換が図れ緊急時のスムーズな対応や職員の質の向上及びケアの向上につなげることが出来る。デイサービスや施設全体で合同行事をおこない地域との交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

丘の上の緑に囲まれた4階建ての建物で、特別養護老人ホームとデイサービスに併設されたグループホームである。定期的に施設とホームの詳細な活動内容を記載した「樹の里だより」を発行し、家族・地域へ情報発信を行っており、「とてもわかりやすい」と好評を得ている。また、今回実施した家族アンケートでは、「職員の対応が良い」「生き生きと生活してる」等の意見が多く、ホームの取り組みの成果が現れる結果となった。また、家族のみならず地域住民との繋がりにも力を入れ、ボランティアの受け入れや認知症に関する研修等実施し、施設・ホームの活動の理解を深めている。今後も継続的に活動を続け支援の輪を広げることで「認知症」「グループホーム」への理解が深め、地域を巻き込んだ認知症ケアの実現が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠実・努力・感謝」を理念に掲げ地域との交流を大切にし、地域生活の継続支援を重視した理念を大切にしている。GH会議では理念に基づいたケアについてカンファレンスを行っている。	理念を基に活動をするのが、利用者・家族・職員満足につながることを周知・共有している。また、職員育成の基本として位置付け、理念・方針に沿った指導に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への買物や外食喫茶、広報の配布、資源回収、ボランティアの受け入れ、行事への参加等積極的に交流を図っている。	地域との付き合いも事業所として構えるまでもなく、自然に行えている。また、地域での行事やボランティアの受け入れ等積極的に行い事業所の活動の理解を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアの専門性、実践力を生かして介護の不安や負担軽減につながるアドバイスを、ホーム来棟時や電話相談時に積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見は議事録に残し、職員全員周知しGH会議等にて報告し、話し合いを行いサービスの向上に活かしている。	定期的に行われている運営推進会議では、事業所の近況や活動内容について具体的な説明をしており理解を得よう努めている。また、様々な意見交換が行われており、事業所の日々の取り組みの中に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に委員として出席していただき、意見交流や情報交換を行い、尚且つ認定申請の機会にご利用者の情報を具体的に伝える等連携を深めている。	行政担当とのよりよい関係作りに努め、報告・連絡・相談・確認をすることで、相互の情報交換を行い、情報を事業所のサービスの質の向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止に関する指針」を基に行われる研修に参加し、知識を得、正しく理解し、ケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止への意識は高く、定期的に研修を行い意識の統一を図っている。また、利用者の「安全確保」にすり替えることがないように、転倒・離脱等に関しても、見守りから具体的な工夫まで、様々な取り組みを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、高齢者虐待防止法に関する理解を深め、不適切なケアについてカンファレンスで話し合い認識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GH会議にて勉強会を開き、職員の理解を深め、対応が必要と思われる利用者がある場合随時職員に説明、アドバイスをを行いご利用者の支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金については不安や疑問が多いため詳しく説明し同意を得るようにしている。又、起こりうるリスクや退居を含めた事業所の対応可能な範囲についても説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に民生委員、市職員、ご利用者ご家族多数出席していただき、意見要望を出して頂き会議で話し合い反映させている。また、面会時等でご家族に常に問いかけ、何でも話していただける雰囲気作りを心がけている。	来所時に家族と話す機会を設け、意見・要望の把握に努めている。また、受け止めた意見・要望は職員間で検討し対応している。今回実施した家族アンケートでの満足度も非常に高く、家族の満足に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議を月1回行うことにより職員の意見要望を聞くと共に、提案に対して前向きに捉え、運営に反映させている。日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けている。	風通しの良い職場運営に努めており、会議もとより日常的にも職員が然に意見が言える事業所風土を作っている。出された意見や提案は積極的に運営に反映させている。その結果職員のモチベーションは高くサービスレベルの向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。自己申告を行い必要時面接し、職員が向上心をもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行われる内外研修の情報を収集し、職員の段階に応じて受講できるよう計画している。研修報告は全体会議で報告し職員の周知を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームを訪問し、職員やご利用者と交流を図り情報交換やケアの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で必ずご本人と会い、多くの情報を収集し職員が周知できるようにし、ご家族やご本人の思いを受け止め理解し安心していただき信頼につなげるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや要望を話し易い雰囲気をつくりゆっくりと話を聞き、良い関係をつくるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人やご家族の思い、状況を確認し、できることはすぐに実行し、できないことでも対応策を共に考え、継続した信頼関係を築けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を人生の先輩ととらえ一緒に生活する中で思いを聞きつつとりいれるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子や職員のきずきや思いをきめ細かく伝えることで情報を共有しともに支える協力関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内のなじみの方に散歩を兼ね面会に行っている。昔馴染みの友人の面会やなじみの地域への買物等を行い地域との関わりの継続を心がけている。	職員は利用者一人ひとりと何気ない会話の中から思いや希望を引き出し、外出等希望に沿った支援を行っている。また、ホームでは実現が難しいことでも、家族との協力で利用者の様々な要望に応えることができる体制づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者との関係を日々の様子から把握して職員間で共有し、ご利用者同士が円滑に支えあっていけるよう心掛けている。又問題発生時職員が仲介に入り、トラブルに繋がらないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用の終了された方でも面会に行き会話を楽しんだり、ご家族に声掛けをするなど関係の継続に努めている。必要に応じて情報提供を行い連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で定期的に声掛けし、把握に努めている。言葉や表情などから思いを汲み取るよう努めている。	日々の何気ない言葉から、利用者の希望・要望の把握に努め、実施に向け努めている。また、温かみのある日常支援を行い利用者の尊厳を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族面会時に認知症の方にとっての生活歴の重要性をお話し、情報収集しそれらの蓄積により全体像を捉えられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人一人の生活リズムを理解し、無理強いすることなくその人の強みを生かすことによりその人を捕らえ全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には日々の関わりの中で、ご家族には面会時に思いや意見要望を聞き、ケアプランに反映させている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	定期的に行われるモニタリングにより介護方針が検討されており、利用者の状態が変化した時にはその都度介護計画が検討され、常に適切な支援が提供できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の他に、気づきノートや連絡ノートを活用し、職員間で情報を共有するよう努めている。いつでもすべての職員が確認できるようにし勤務開始前の確認は義務づけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況や家族の意向要望に応じて通院の付き添いや、外出・外食・買物・喫茶など柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に委員として民生委員や老人会、市職員に参加して頂いている。資源回収やペットボトルキャップの回収を通じて小中学校との交流を図り地域で安定した暮らしが継続できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、ご利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう家族と協力し、通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらっている。複数の医療機関と連携を図っている。	協力医療機関の往診・家族協力の下で利用者希望の医療機関の受診を実施する等柔軟に対応をしている。また、定期的に健康管理を行い、利用者に対し適切な医療支援が提供できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化に気づいた事があれば気づきノートに記入し異常の早期発見に取り組むと共に全職員が情報共有をはかり、施設内看護職員に相談し、確実な連携が図れるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人に関する情報を医療機関に提供し、ご家族と協力しながら週2回ほど職員が見舞うようして速やかな退院支援に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化の伴う意思の確認書を作成し、事業所が対応することが出来る最大のケアについて説明し、同意を得ている。	重度化や終末期については利用者・家族と早期より話し合いを行い意向の把握に努めている。また、家族・医師・職員の連携が確立しており、今後多様化するであろうニーズに対応できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応方法のマニュアルを整備し周知徹底を図っている。又、消防署の協力を得て救急手当てや蘇生法の研修を定期的実施し、全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年4回避難訓練を行っている。訓練の際消防署の協力をえて避難経路の確認や消火器の使い方などの訓練も定期的に行っている。	定期的に避難訓練・防災訓練を実施し、非常災害時には迅速に利用者を避難誘導することが出来るように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、ご本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心掛けている。個別性や守秘義務について理解し責任ある取り扱いと管理を行っている。	スタッフは一人ひとりの生活歴・性格・特性を理解し、自尊心やプライバシーを損ねることのないケアを心掛けている。訪問調査の視察時では、スタッフが利用者に対し落ち着いた姿勢で傾聴・受容し、優しく対応していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の個別性に合わせて声掛けをしご利用者が自己決定できる場面を作り出している。難聴の方には筆談やジェスチャーで対応し、あいまいな伝わり方にならないよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる一日の流れはあるが、ご利用者一人一人のペースを尊重し、できる限り希望に沿うよう個別支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回ご希望者は出張理美容を利用している。また、ボランティアにて希望者にネイルケアやメイクを行っている。入浴時や朝夕の更衣は基本的にご本人の意向で決めて頂き、必要時介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者一人一人の好みや持っている力を日々の情報から把握し、ホームの畑でできる野菜を用い一緒に調理することで、食欲を高めたり、食事への関心を引き起こす工夫(バイキング等)をしている。	利用者の残存能力を把握し、一人ひとりのペースに合わせ支援を行っている。また、利用者作成のおはぎを運営推進会議の参加者に振舞う等様々な取り組みが行われており、家族や地域の方から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を用い毎食摂取量をチェックし、体重は月2回測定することで体調管理に努めている。栄養バランスや水分量は施設内の栄養士に相談アドバイスをうけつつ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや見守りなど一人一人の力に応じた対応が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けや夜間帯の確認等一人一人に合わせて支援している。失敗した場合でも極力ご本人が傷つかないように速やかに周囲に気づかれないよう配慮している。	日々の生活より排泄パターンを把握し、職員は個々にさりげない声掛け誘導・介助支援を行っている。また、生活リズムや状態等に変化が見られた場合は、現状把握・対応に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操や散歩で活動をアップし、水分補給の徹底を行い便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者のその日の希望を確認し、安全安楽に入浴していただけるよう支援している。入浴に対する不安や抵抗感に配慮した声掛けを行い個別対応を工夫している。	入浴の時間や回数等は入居者の希望に応じて柔軟に対応している。入浴の可否については体調を勘案しその都度確認したうえで決定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。又、体調や希望を考慮して休養できる支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬の説明書をファイルに保管し、全職員にわかるように徹底している。又、処方の変更時連絡ノートを活用し、薬の理解を深め、状態変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人一人の強みを理解し、張り合いや喜びに繋がる役割を促している。又、個性を考えながら、楽しみや気分転換が図れる行事やレクを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型インフルエンザ等の配慮により、一人一人の希望を十分にはかなえられてはいない現状であるが、できる限り習慣や好みご家族の希望に配慮し、喫茶店や買物、外出等を行っている。又、外出計画はご利用者と相談し計画立案している。	日常的に外出の機会を設け、利用者の希望要望に応じて、散歩や買い物等の外出が行われている。また、今年度は新型インフルエンザの影響で外出の機会をなかなか得ることができなかったが、併設施設へ出かけ、特養の利用者と話しをする等を行い気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望によりお金を預かり、外出時や買物の際、その人の力に応じて不安なく支払いをしていただけるよう、声掛けしお金を手渡すなど工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年賀状を出す為の支援を欠かさず行い、ご家族や親戚に対するお礼の手紙やはがきのやり取りを促す声掛けを行っている。ご利用者の希望時電話の利用も行い内容が漏れないよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用リビングの飾りつけはご利用者と一緒に考え季節感のある手づくりの作品を飾っている。リビングにソファや金魚の水槽を置き、居心地良く過ごせる空間を作るよう工夫している。	共有空間は落ち着いて過ごせるよう工夫しており居心地のいい空間となっている。訪問調査当日も利用者のリラックスした様子を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやダイニングテーブル、いすの配置を移動することなく、仲の良いご利用者同士や一人でくつろげる空間を作る配慮をしている。又折り合いの悪いご利用者同士への配慮も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人と相談し、自宅で使い慣れた家具や寝具を持ち込んでいただき、なじみの家具やご自分が作ったものや思い出のある写真を飾り、居心地の良い環境を作っている。	家具の持ち込み等は自由であり、使い慣れた家具や趣味の道具を配置する等居室一つ一つに個性が感じられた。また、「自分の場所」支援として、「個人」のわかる写真・作品掲示等で、「他の人の部屋」との識別も図っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の身体機能に合わせた環境作り に心がけヒヤリと感じた事はヒヤリハットで提示し、会議で話し合っご利用者が安全に生活できるよう対策を講じている。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	地域との付き合いも事業所として構えるまでもなく、自然に行えている。また、地域での行事やボランティアの受け入れ等積極的にいき事業所の活動の理解を深めている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	定期的に行われている運営推進会議では、事業所の近況や活動内容について具体的な説明をしており理解を得よう努めている。また、様々な意見交換が行われており、事業所の日々の取り組みの中に活かしている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	行政担当とのよりよい関係作りに努め、報告・連絡・相談・確認をすることで、相互の情報交換を行い、情報を事業所のサービスの質の向上に活かしている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	来所時に家族と話す機会を設け、意見・要望の把握に努めている。また、受け止めた意見・要望は職員間で検討し対応している。今回実施した家族アンケートでの満足度も非常に高く、家族の満足に繋がっている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

丘の上の緑に囲まれた4階建ての建物で、特別養護老人ホームとデイサービスに併設されたグループホームである。定期的に施設とホームの詳細な活動内容を記載した「樹の里だより」を発行し、家族・地域へ情報発信を行っており、「とてもわかりやすい」と好評を得ている。また、今回実施した家族アンケートでは、「職員の対応が良い」「生き生きと生活してる」等の意見が多く、ホームの取り組みの成果が現れる結果となった。また、家族のみならず地域住民との繋がりにも力を入れ、ボランティアの受け入れや認知症に関する研修等実施し、施設・ホームの活動の理解を深めている。今後も継続的に活動を続け支援の輪を広げることで「認知症」「グループホーム」への理解が深め、地域を巻き込んだ認知症ケアの実現が期待できるホームである。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。